

「企業版ふるさと納税 県内自治体×企業 オンライン説明会」

企業版ふるさと納税プロジェクト 【熊本県高森町】



熊本阿蘇『野の花と風薫る郷』

高森町

WELCOME TO TAKAMORI TOWN!

根子岳 & 南阿蘇鉄道
Neko-dake & Minamiaso Rail-Way
トロッコ列車「ゆうすげ号」
Trolley train [Yusuge]

高森町のご紹介



高森湧水トンネル公園

高森町はココ！



阿蘇山の南側「南郷谷」にあります

4



★ 高森町中心部
Takamori Town Center

熊本県阿蘇郡高森町について

高森町の地勢

- ・総面積 175.06 km²
- ・人口 6, 193 (令和3年7月1日現在)
- ・高齢化率 41.8%(同日現在)

熊本県阿蘇郡高森町は、阿蘇山の麓、熊本県の最東端、北は大分県竹田市、南は宮崎県高千穂町との三県境に位置します。2016年に発生した熊本地震による直接的な被害は最小限でしたが、地域唯一の鉄道交通機関である南阿蘇鉄道の全線復旧対策をはじめ、熊本県を挙げての熊本地震からの「創造的復興」による地域づくりに、スピード感を持ち地方創生への「トップランナー」となるべく取り組みを進めています。

- ・主な産業は、**観光と農林業**です。
 - 観光地:高森湧水トンネル公園、月廻り公園、高森殿の杉、南阿蘇鉄道トロッコ列車
上色見熊野座神社、根子岳登山、九十九曲千本桜・・・etc
 - 特産品:あか牛、ヒゴムラサキ、高冷地野菜(キャベツ、ダイコン)、阿蘇南郷檜(アソナンゴウヒ)



町内全戸に整備した光通信環境

～正しい情報の発信と共有・共感の高森町～

日本一地域密着型番組 光ケーブルテレビ “たかもりポイントチャンネル(TPC)”

◇行政サービスのお知らせ



映像を通じた情報の共有

- ・災害時緊急生放送
- ・行政、くらしの情報(毎週更新)
- ・生中継(議会、成人式、イベント)
- ・警察・消防からのお知らせ(毎週更新)・・・etc

- ・たかもりあの人(町出身著名人特集)
- ・TPCフォトダイアリー
- ・地域イベント
- ・週刊情報たかもり
- ・介護予防体操番組

◇住民参加型番組・企画番組



ストーリー性のある話題で共感

企画・撮影・編集・放送の運営すべてが
メイド・イン・高森町役場職員

◇データ放送から行政・くらしの情報をいつでも誰でも取得が可能



緊急情報、防災無線情報、
交通ライブカメラ、おくやみ
情報・・・etc

YouTubeとも連動!

高森町公式YouTubeチャンネル



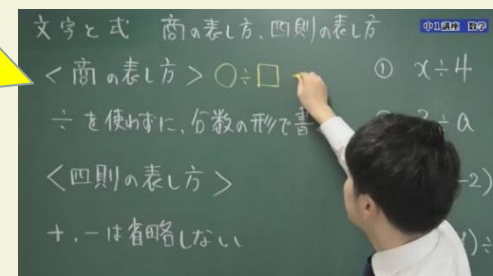
◇映像のアーカイブ化



- ・懐かしのお宝映像
- ・先人の記録を共有
- ・高森の『今』をアーカイブ化

- ・高森型遠隔授業
コロナ禍の休校中の勉強対策
- ・高森型受験対策授業
高校受験生向けテレビ学習塾
- ・Tテレ(協育TV)
町社会体育、部活動、スポーツ
活動の放送番組

◇サブチャンネル(教育関連番組)



世帯加入率約97%をフル活用した正しい情報の共有・共感の高森町!

町内全戸に整備した光通信環境

～正しい情報の発信と共有・共感の高森町～

交通情報(バス時刻表・道路情報カメラ)

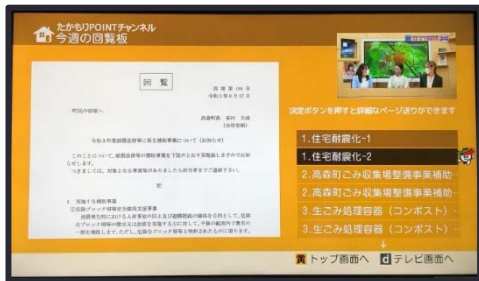


テレビの『データ放送』をフル活用した情報発信

防災無線音声テレビから取得し確認



暮らし情報(回覧板)



町や県からの緊急情報が出た際には全画面に大きく表示して緊急告知

行政情報(新型コロナウイルス対策等)



テレビリモコンひとつで

正しい行政情報をいつでもテレビで確認できる



高森に誇りを持ち、夢を抱き、元気の出る教育

名・実「日本一」の教育ICT環境の整備と実践

- ◆ H24（光ファイバー網整備と同時）に段階的に導入
- ◆ 目的に応じたツールとしてのICT活用
- ◆ 教師の活用→児童生徒の主体的活用へ
- ◆ 遠隔教育の実践は6年目を迎える
- ◆ 持ち帰り学習の実践は4年目を迎える
- ◆ 新型コロナウイルスによる休校期間中には、全国に先駆け在宅での遠隔授業・生活支援を全児童生徒に実施！



- ・ 全教室電子黒板常設
- ・ 実物投影機常設
- ・ デジタル教科書完備



- ・ タブレット端末（一人一台）
- ・ 学習支援ソフト
- ・ 無線LAN整備
- ・ Web共有ボード



- ・ 遠隔教育
- ・ オンライン教育
- ・ Gsuite活用
- ・ 全家庭Wi-Fi環境整備



- ・ 新たな教育の風を興す遠隔教育
- ・ 高森町タブレット図書館
- ・ 熊本日日新聞社、高森町、高森町教育委員会連携協定事業

◆熊本地震と南阿蘇鉄道と高森町

南阿蘇鉄道とは

1985年、地元の熱い思いによって旧国鉄高森線から第三セクター「南阿蘇鉄道」(愛称「南鉄」)として、沿線自治体(高森町、南阿蘇村、山都町、西原村、大津町)に引継がれ、地元の公共交通機関として通学や通院の住民に利用されてきました。また風光明媚で阿蘇カルデラ内の「里」を走る路線であることから、開業当初より観光列車としてトロッコ列車「ゆうすげ号」を導入するなど観光面に力を入れ、多くの観光客を運び、楽しませてきました。今では四季を問わず外国人観光客も増え、阿蘇観光には欠かせないローカル色豊かな鉄道として愛されています。



推奨土木遺産立野橋梁を走るトロッコ列車

熊本地震による被害

2016年4月16日に発生した熊本地震により、特に長陽駅～立野駅間のトンネルや、選奨土木遺産に認定された橋梁に甚大な被害が生じました。地震発生から3年以上が経過した今も、今年8月に開通したJR豊肥本線との接続も途切れたままです。

復旧工事費用は最大70億円にも上り、2023年3月までに白川に架る「第一白川橋梁」の架け替え工事が進められています。現在も部分運行を強いられ、乗客数は地震前年度に比べ、約78%以上の落ち込みとなり、南阿蘇鉄道は経営的にも大変厳しい状況となっています。



熊本地震により甚大な被害が生じた立野駅付近

全線復旧へむけて

南阿蘇鉄道は2023年夏の全線開通を見据え、経営コストカットの徹底、観光列車やイベント列車催行による利用促進、沿線自治体とのイベント開催やSNSによる継続した情報発信、グッズの販売強化等、社員のみならず地域、行政が一体となり、地域には無くてはならない鉄道公共交通機関として、その存続を懸け取り組んでいます。南阿蘇鉄道は小さなローカル線です。しかし、これからの人口減少社会における地域には無くてはならない鉄道公共交通機関です。「南鉄」が一日も早く全線復旧を果たし、地元の足・観光の足となり震災前の元気な南阿蘇に戻るよう頑張っておりまいますので、引き続き皆様のご支援をお願いします。



小学館まんがよせがきトレイン



ONE PICE熊本復興

プロジェクト



大相撲阿蘇高森場所

◆熊本地震の被害（復旧工事費総額 70 億円）

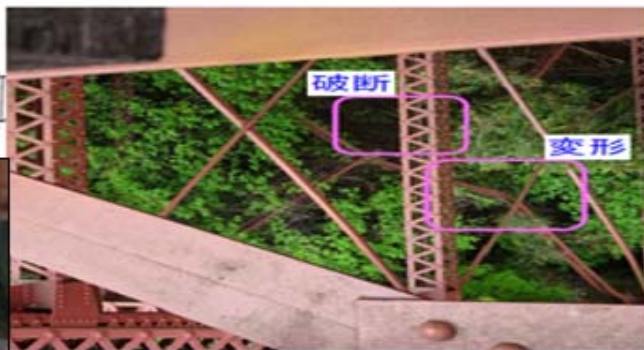
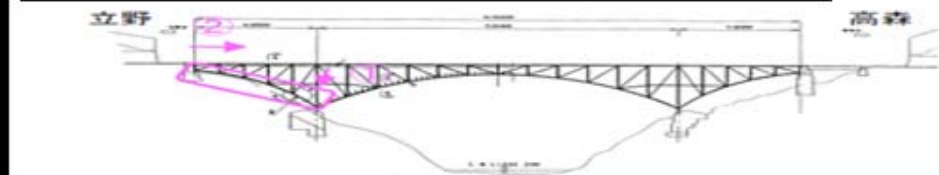


土砂流入終点側・激しい変状 立野駅から1k300m付近～延長約250m

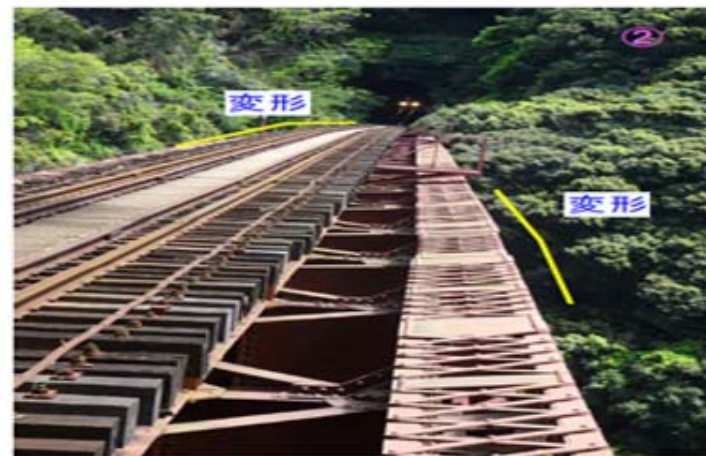


犀角山トンネル内部崩壊、裂多数

【選奨土木遺産認定第一白川橋梁】



ローラーの逸脱



◆これまでの沿線地域の南阿蘇鉄道を応援する取組み（住民活動）



- ① 7/31部分運行再開イベント南阿蘇鉄道復活祭1stSTAGE（来賓セブン銀行二子石社長）
- ② 駅前マルシェ（合計5回開催）
- ③ 11/27アニメ『ONE PIECE』ラッピング列車出発イベント 南阿蘇鉄道復活祭2ndSTAGE
- ④ 『ONE PIECE』ラッピング列車車体
- ⑤ 12/4村上隆氏バルーンアートオブジェによる利用者誘客対策
- ⑥ 3/4ONE九州フェス（経済産業省主催）
- ⑦ 4/15小学館「がんばれクマモト！マンガよせがきトレイン」運行開始イベント南阿蘇鉄道復活祭4thSTAGE

◆これまでの沿線地域の南阿蘇鉄道を応援する取組み（企業等支援の一例）

◆ONE PIECE熊本復興プロジェクト【フランキー像】



◆南阿蘇鉄道「がんばれクマモト！マンガよせがきトレイン」 (協力／小学館) 運行

運行期間 平成29年4月15日 ~ 平成30年11月30日



企業版ふるさと納税活用プロジェクト

レールが光れば地域が光る



高森町・熊本地震からの
創造的復興への挑戦

たかもりまち
熊本県高森町

【熊本地震創造的復興】

南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発と熊本都市圏へのアクセス強化プロジェクト

プロジェクト名【熊本地震創造的復興】

南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発と熊本都市圏へのアクセス強化プロジェクト

SDGs ターゲット



概要

南阿蘇鉄道の始発・終着駅である高森駅と駅周辺を対象に、まちづくり戦略の三つの柱である「定住」・「観光」・「防災」をキーワードに再開発事業を実施し、熊本地震からの創造的復興を確実に推進する。

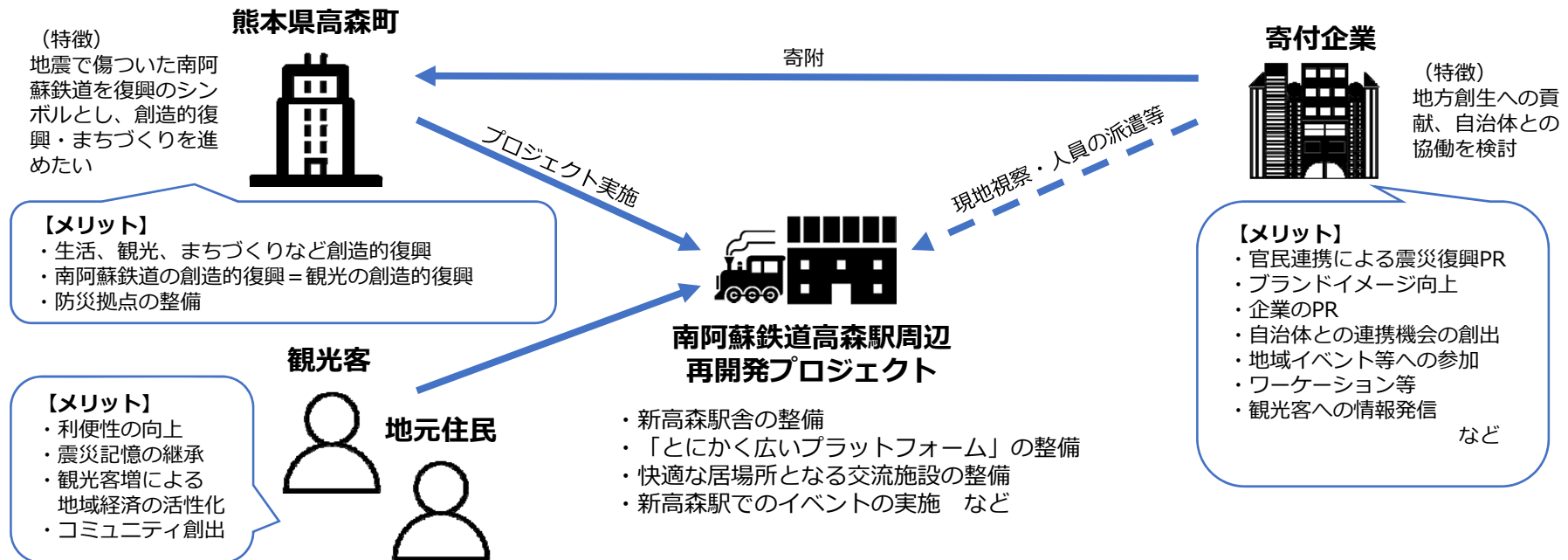
自治体KPI（地域再生計画・地方版総合戦略抜粋）

- ・高森町への入込観光客数 100万人以上（R5）
- ・南阿蘇鉄道年間輸送人員数 7万5千人以上（R5）
- ・JR豊肥線へ南阿蘇鉄道運航列車の 乗り入れ実現（R5）

企業KPI（中期経営計画）

- ・レジリエントで持続可能な地域社会への貢献
- ・企業のブランドイメージの向上
- ・新規事業の構築により、売上等のKPIの達成

プロジェクトイメージ



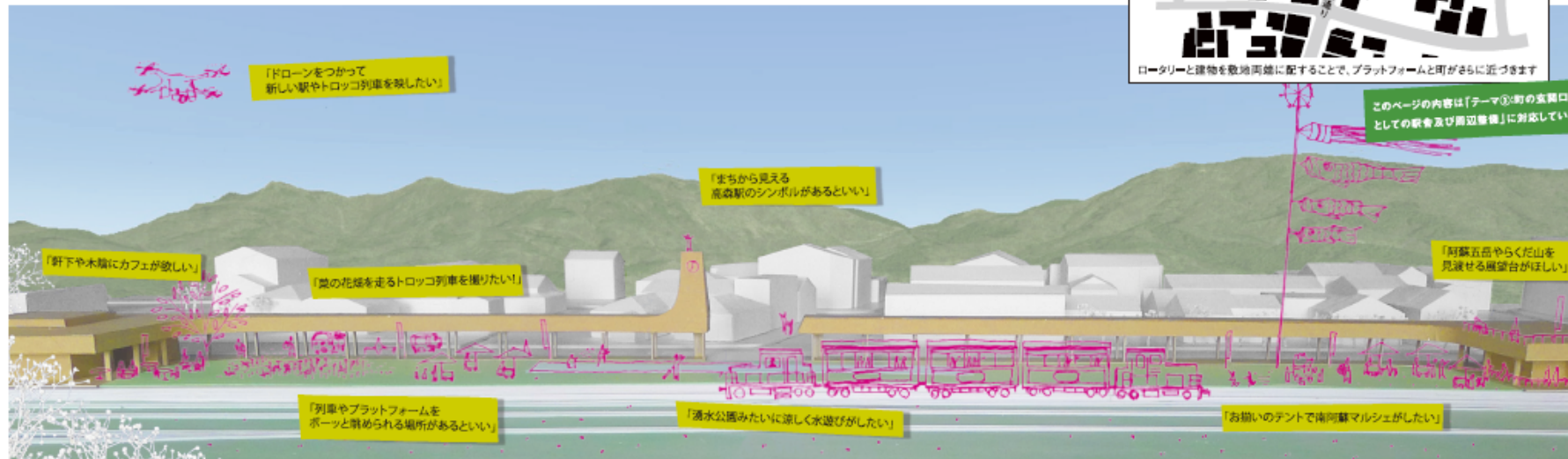
事業概要

南阿蘇鉄道の始発・終着駅である高森駅と駅周辺を対象に、まちづくり戦略の三つの柱である「定住」・「観光」・「防災」をキーワードに再開発事業を実施し、熊本地震からの創造的復興を確実に推進する。

「とにかく広いプラットフォーム」が高森の玄関口です

高森駅でしかできない壮大な計画が可能です。
それは120m×16mの「とにかく広いプラットフォーム」を出発点とする計画です。
このプラットフォームで始まる変化が、町に自然に染み渡っていくように、
私たちは町と駅を今まで以上に近づけることを提案します。

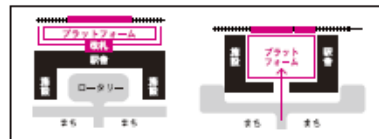
※くまもとアートポリスプロジェクトデザイン



なぜ「とにかく広いプラットフォーム」*なのでしょう？

理由1: 町と駅を近づけるため

一般的な駅構造ではロータリーと駅舎の奥に隠れてしまうプラットフォームを、もっと町に近づけたいと私たちは考えました。高森のシンボルは駅舎ではなく、美しい沿線風景を見に来る人々で賑わい、個性豊かな車両が発着するプラットフォームであってほしいからです。そして、車内改札方式によって改札口を持たない高森駅からこそ、プラットフォームと町が連続する駅構造を採用できるように私たちは気が付きました。



一般的な駅構造(左)と高森駅の駅構造(右)

理由2: 夕焼けを見るため

プラットフォームと町が連続すれば、プラットフォームの西側に広がる阿蘇平野の風景が今よりも身近になります。何よりも、浜辺のように広々としたプラットフォームから見る夕焼けは壮大なものとなり、町の皆さんのお気に入りの集まりの場となります。世界には西向きに浜辺に起終点駅を持つ都市がいくつかありますが、高森駅もそれに負けない美しい駅になります。



西向きに起終点駅の例:アトレード(左)とルアーブル(右)

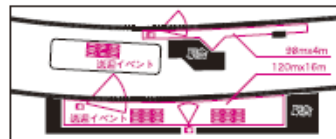
理由3: トロッコ列車の体験を豊かにするため

改札口のない車内改札方式はトロッコ列車を持つ他の路線と比べてもユニークな特徴です。これにより、①駅舎内で改札開始を待つ必要がなく、②眺めの良いプラットフォームでの滞在時間を長くできる、③送迎客など誰もが列車に近づける、などの利点が生まれています。ただ、現在の高森駅は一般的な駅構造のため、この利点が十分には活かされていません。

船越野観光鉄道 (京都)	7.3km	4 駅	駅改札口
わたらせ渓谷鉄道 (群馬・栃木)	44.1km	17 駅	車内改札
小湊鉄道 雲山トロッコ (千葉)	9.2km	4 駅	駅改札口
黒部峡谷鉄道 (富山)	20.1km	10 駅	駅改札口
門司港レトロ観光線 (福岡)	2.1km	4 駅	駅改札口
南阿蘇鉄道高森線 (熊本)	17.7km	10 駅	車内改札

国内の主なトロッコ列車の改札方式

広大なプラットフォームは、トロッコ列車の体験を豊かにします。①阿蘇五岳と列車のツーショットが撮影でき、②列車全景・乗車風景を撮影する引きも十分に取ることも可能です。③送迎イベントを降車直後から、又は乗車直前まで楽しめるのも観光客には嬉しいでしょう。何よりも、そうした④嬉しい風景をプラットフォームに居合わせた誰もが見ることができるようになります。



高森駅の現状(上)と新しいプラットフォーム(下)の比較

理由4: プラットフォームの旅のため

最後の理由は南阿蘇鉄道全線に関連するものです。トロッコ列車の最大の魅力は阿蘇五岳・外輪山・深谷を眺める車窓風景ですが、カフェ、本屋、温泉などを併設する個性豊かな駅舎のプラットフォームでの駅世話人たちとの交流も大きな魅力となっています。言わばトロッコ列車の旅はプラットフォームの旅なのです。起終点高森駅は、その旅のハイライトとなるのです。



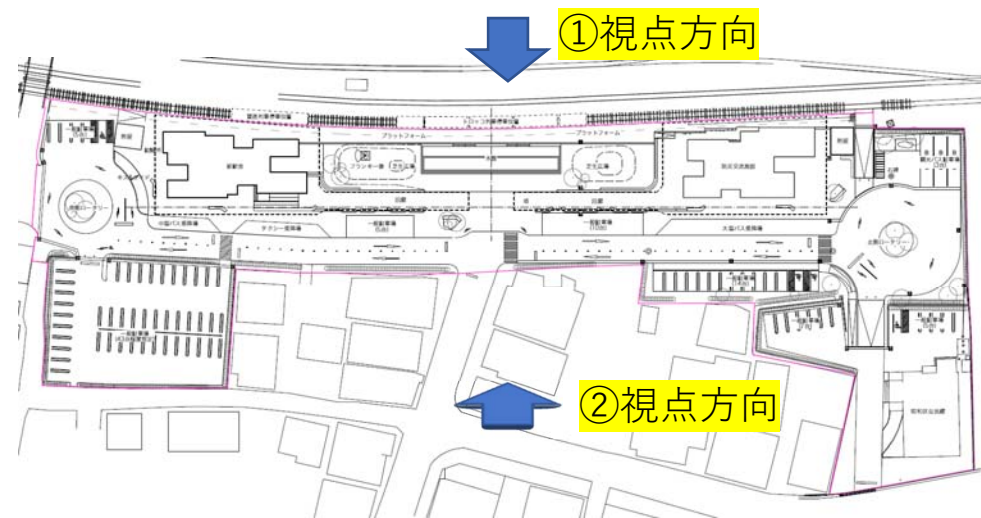
トロッコ列車の旅はプラットフォームの旅

*鉄道法軌道施設規程第18条においてプラットフォームの下限は1.5m(片面)と定められていますが上限の規定はありません

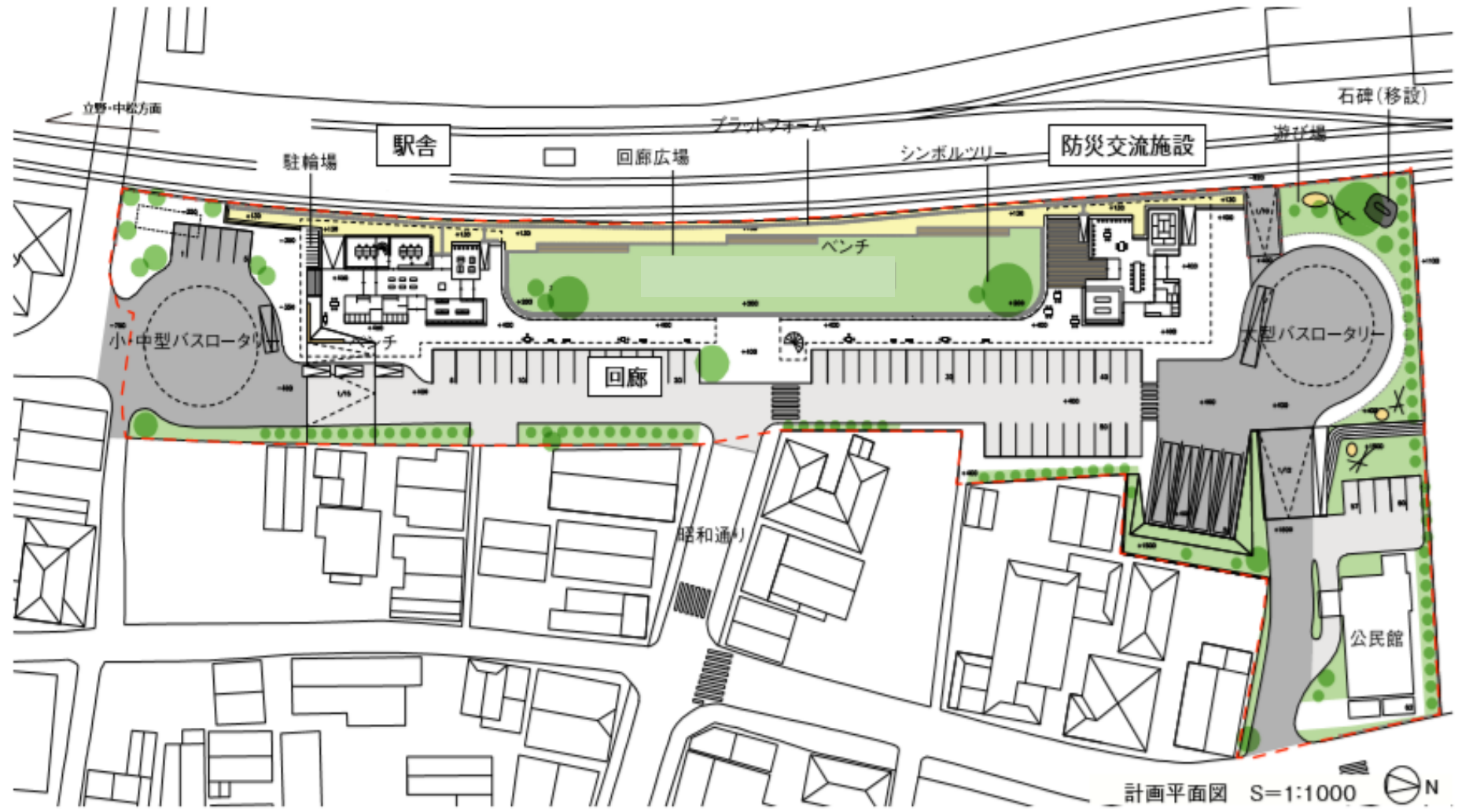
①新高森駅周辺完成イメージ（夕暮れバージョン）



② 新高森駅周辺完成イメージ（鳥観図）

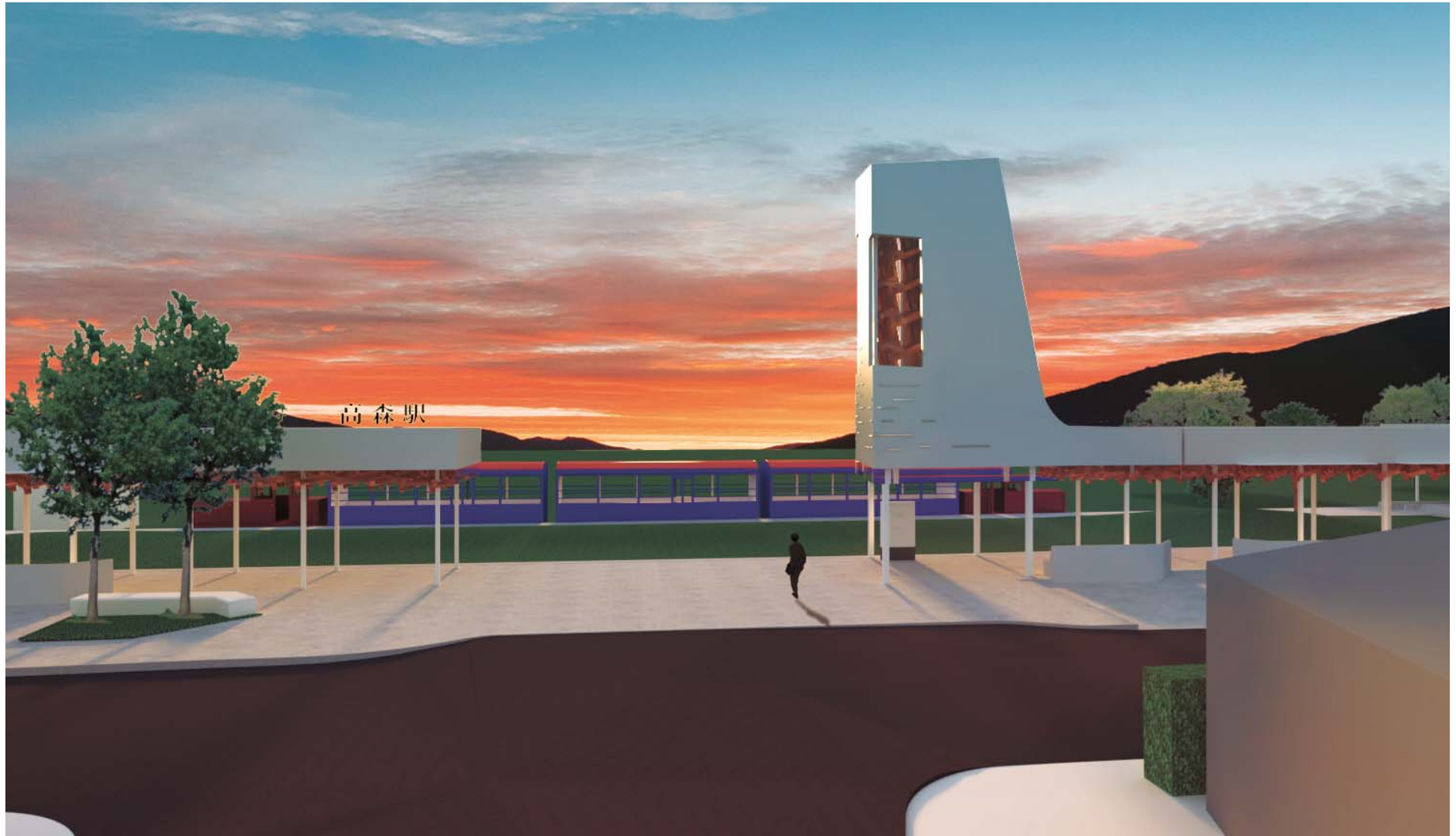


③新高森駅周辺レイアウト図





新駅舎（線路より）



高森駅

駅前広場



防災交流施設



新高森駅舎内

◆プロジェクトに関連する「創造的復興」を進めるための施策

『南阿蘇鉄道の熊本都市圏アクセス30分台構想プロジェクト』

- ➡移住定住の起爆剤に
- ➡高齢者の免許返納社会への対応
- ➡熊本空港アクセスとの連動
- ➡インバウンドへの目的地訴求力

南阿蘇鉄道 豊肥線乗り入れ 再生協 JR と協議へ

熊本地震

熊本地震で被災した第一セクター南阿蘇鉄道(立野-高森、17.7km)の沿線自治体などで行く南阿蘇鉄道再生協議会は27日、同鉄道が2023年夏に全線で運行再開するのに合わせて、立野駅(南阿蘇村)を経由してJR豊肥線肥後大津駅(大津町)まで乗り入れの方針を決めた。今後JR九州との協議を本格化する。

【22面に関連記事】南阿蘇鉄道は立野で豊肥線と接続している。豊肥線は熊本-肥後大津の運行本数が多いため、肥後大津で接続すればアクセス向上が図れるとして、沿線の高森町と南阿蘇村が「住民の利便性向上や観光振興につながる」と判断。県庁で同日開かれた再生協の会合で了承された。

県の試算では、乗り入れに必要な線路やレールを切り替えるポイント、信号などの整備費用は約4億2千万円。これらの事業費を高森町と南阿蘇村が折半して負担する。

JRとの協議では、ダイヤ調整や運賃収入の配分、JRに支払う線路使用料などが焦点となるとみられる。再生協の方針決定を受け、JR九州は「正式に依頼があれば協議に応じていきたい」とのコメントを出した。

この日の再生協では、高森-肥後大津の直通運転により、観光や定期外利用の増加などで年間利用者が約6万8千人増えるとの需要予測も報告された。

一方、再生協は南阿蘇鉄道が復旧費の大幅な財

熊本地震

通学、観光 利便性向上に期待

南阿蘇鉄道、豊肥線乗り入れ方針

第三セクター南阿蘇鉄道(高森町)の沿線自治体と同鉄道をJRまで乗り入れる方針を決めた27日、沿線住民や観光関係者からは利便性の向上に期待の声が上がった。

【一面参照】同鉄道は熊本地震の復旧工事で部分運行が続いており、沿線自治体は全線再開となる2023年夏の肥後大津乗り入れを目指す。中学3年の長女を大津町の学習塾に通3回送迎している高森町の公務員植田雄亮さん(40)は「中学1年の次女も熊本市内の高校を目指している。乗り入れが実現すれば通学が選択肢に入り、経済的に助かる」と喜ぶ。小学4年の孫が習い事で大津町方面に通う

熊本地震	
建設型仮設住宅	138戸 (367人)
借り上げ型みなし仮設	190戸 (514人)
公営住宅など	3戸 (11人)

熊本地震の仮設の入居状況

南阿蘇村の会社員後藤好子さん(59)も「鉄道で通うことができれば、送迎も近くの駅まで済む。待ち通し」と歓迎した。

同村の白川水源管理組合長、田上栄喜さん(74)は「熊本市など都市部からのアクセスが良くなり、鉄道で南郷谷を巡る人も増えるはず。各施設が工夫すれば、地震前の観光客数を回復させることも夢ではない」と話した。

高森町の草村大成町長と南阿蘇村の吉良清一町長は県庁で会見し、「乗り入れて通勤や通学の利便性が大きく向上する。観光面の経済効果にも期待している」と述べた。

(上杉勇太、野方信助)

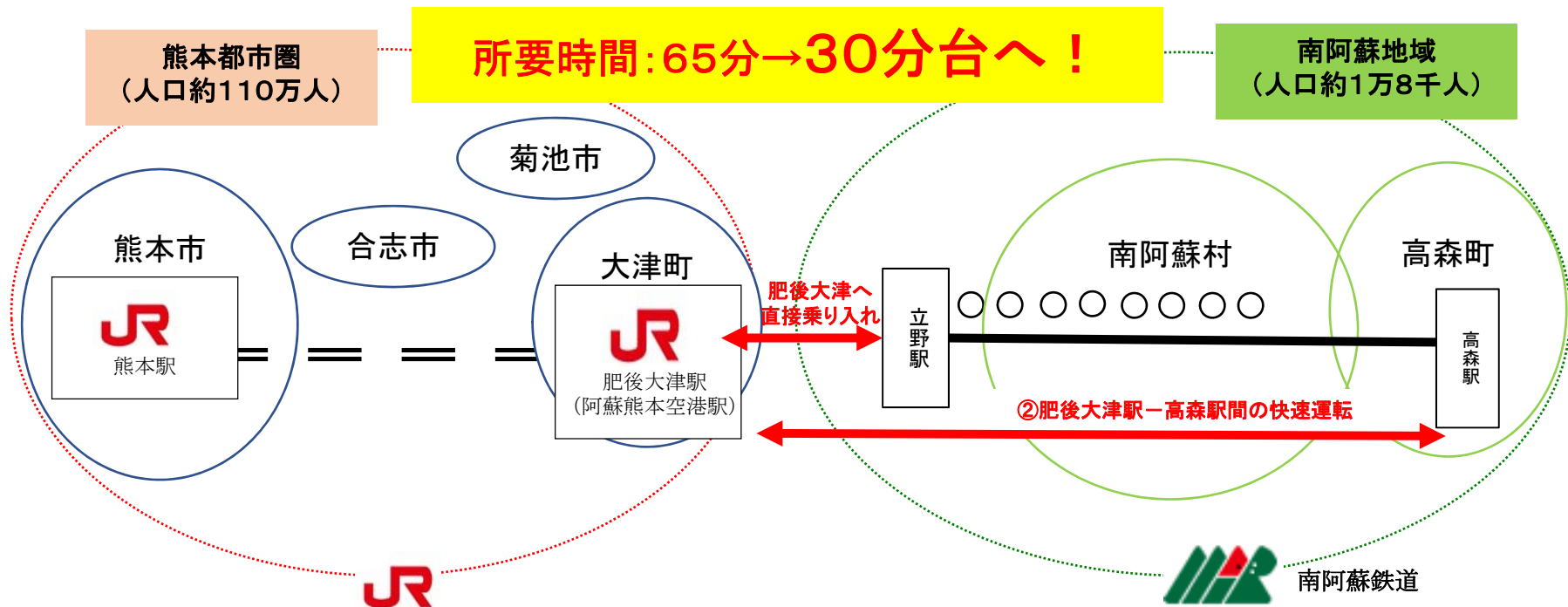
熊本都市圏アクセス30分台構想の意義

南阿蘇鉄道について、全線復旧と同時に下記を実現することで「持続可能な鉄道会社」とする。

①「阿蘇くまもと空港駅(愛称)JR肥後大津駅」への乗り入れを可能にする。

②阿蘇くまもと空港駅(愛称)JR肥後大津駅—高森駅の快速運転を実現することで、
現在65分かかる南阿蘇地域から熊本都市圏のアクセスを30分台に短縮する。

これにより、南阿蘇地域への観光アクセス利便性の向上による観光客の増加を図る。
さらには、移住・定住、高齢社会への対応や行政サービスの効率化といった社会的問題の解決を図り、南阿蘇地域における地方創生を実現する。



熊本都市圏30分台構想イメージ図 (構想実現後)



企業版ふるさと納税のご検討にあたって

◆当プロジェクトへの企業版ふるさと納税制度活用のご検討にあたって

①官民連携の震災復興(熊本地震からの南阿蘇鉄道の創造的復興)PR

→企業としての新しい社会貢献的活動として「災害復興支援」と「企業版ふるさと納税制度」のマッチングの先進事例化

→近年全国で多発する自然災害による被災自治体への民間支援のモデルケース的事例化

②南阿蘇鉄道沿線地域公共交通網形成計画(熊本県・南阿蘇村共同策定)に基づいた、公共交通をフックとした地域づくり、地方創生への取り組みへの貢献による全国的PRと企業イメージアップ

→寄付企業との新たなパートナーシップ構築による新事業の展開

- ・過疎地域における新たな公共交通施策等の体系整備の協働

- ・住民、事業者、行政、企業が連携した地域公共交通の利用促進と需要創出、公共交通と観光事業の施策連携による新たなビジネスの創出

- ・公共交通の利用推進による排出CO2の削減効果と脱炭素社会へのアプローチ

→南阿蘇鉄道の全線復旧に合わせて、全国へ風化する熊本地震復興情報に企業情報を併記し発信

企業のメリットについて

高森町HP、町営ケーブルテレビへの企業名の掲載

- ・高森町HPへの企業名掲載。
- ・高森町営ケーブルテレビ内での企業名の紹介。



町長との会見（メディア付）

- ・高森町長との会見・メディア公開（町からのプレスリリース発信及び地元新聞掲載）



南阿蘇鉄道トロッコ列車乗車体験（復興研修付き） & 被災記念レールと枕木オーナー制度による熊本地震の伝承

- ・トロッコ列車乗車体験及び復興研修（120名程度まで）
- ・被災したレールのオブジェ贈呈
- ・枕木オーナーへの登録



熊本県高森町企業版ふるさと納税プロジェクトは、、、
「ふるさとコネクト」からご覧いただけます



こちらのQRコードからプロジェクトをご覧いただけます。
(ふるさとコネクトサイトへリンクします)

税の軽減効果が最大約**9**割！JTBの企業版ふるさと納税サイト

高森町役場総務課

TEL 0967-62-1111 email soumu.tmc@gmail.com

ご清聴ありがとうございました

高森町役場 総務課
課長補佐 村上純一